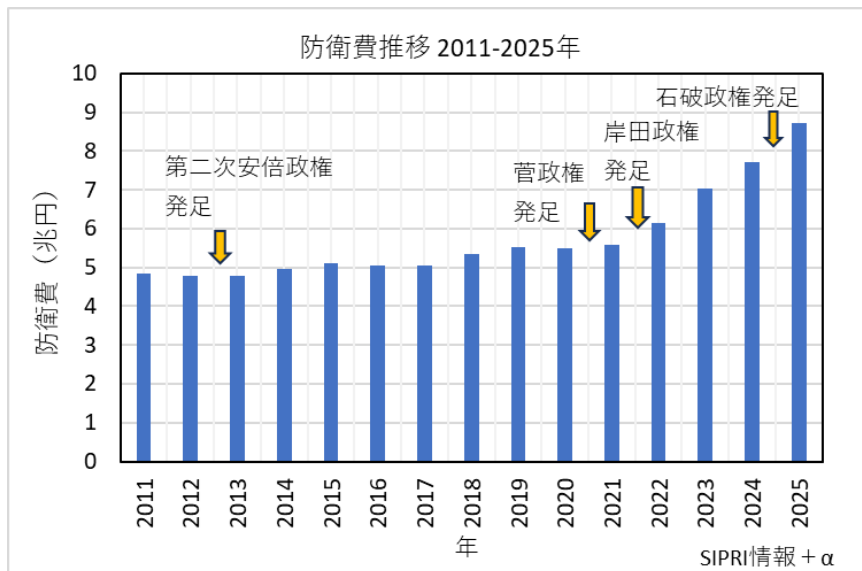


「この国のかたちを見つめ直す」加藤陽子著 毎日文庫 2025年1月15日発行
鈴木 哲雄（学園都市）

第二次安倍政権以降、防衛費が下図のように大幅に増額される中、2025年1月15日



に本書は発行された。2021年発行の単行本を文庫版にするにあたり、3年分余りが増補されている。著者の加藤氏は、菅内閣により学術会議会員の任命を拒否（2020年10月）された6名の候補者の内の一人である。近代史研究者であり、

「太平洋戦争への道 1931—1941」（NHK 出版新書 半藤一利、保坂正康共著）や「満州事变から日中戦争へ」（岩波新書）などの一般向け著作もある。

毎日新聞に2010年4月から連載されたコラムをまとめたものであり、内容は、新型コロナ感染、ご自身も当事者である任命拒否問題、天皇と天皇制、大震災、選挙結果・・・と多岐にわたる。一つ的话题を文庫版4～5ページでまとめており、根気を要せずに読める。「第6章 歴史の本棚」では、他の著者の書籍13冊が紹介されている。筆者が読んだことがある「昭和天皇の戦争」（山田朗著）も紹介されていた。



著者は「危機の時代には、国家と国民の関係を国民の側から問い返して、見つめ直すことが必須となろう。本書がそのためのハンドブックとなれば幸いである。」と最初に記す。また、「真実の歴史を『言葉』から探ること、本書ではこれを目指した。」とおわりに記している。2021年の総選挙結果を受けて、『無党派党』の合理的選択をいかに取り込むか」共に考えたいと述べる。

平和憲法を持ちながら、世界で10位前後の軍事費をさらに増加させつつある日本を理解する参考書と受け取れる。米国に従い戦争に備えて軍事力を増強するのではなく、非戦、平和こそ9条の精神である。